

# 戦争のなかの京都

中西宏次 著



岩波ジュニア新書

【空爆被災を記録する碑】上京区智恵光院通下長者町しもちやうじや。市バス50系統「智恵光院中立売」下車、南へ徒歩約三分。

辰巳たつみ児童公園の一角に「空爆被災を記録する碑」が建てられたのは二〇〇五年八月。敗戦後六〇年がたっていました。この碑を建てようという発起人になった磯崎幸典ゆきののりさんの家族は、空襲警報が出た直後、防空壕に避難して助かったのですが、隣家の四人は全員亡くなったという体験のもち主です。磯崎さんは仕事で旅行する機会が多かったのですが、旅先で「京都も空襲を受けたんですよ」と話すと、決まって「ウソでしょ」と言われたそうです。この体験から、西陣空襲があったことをモノとして残さなければ、記憶はいずれ風化してしまうと強く思い、碑の建立のために奔走ほんそうしたのです（『朝日新聞』マイタウン京都「知られざる西陣空襲」二〇〇八年八月二十九日より）。

一九四四年七月七日、サイパン島の日本軍守備部隊が、在留日本民間人多数とともに玉砕（全滅）しました。このときまでに、米軍はつぎつぎと日本軍が占領していた島々に上陸、各島に孤立していた日本軍守備部隊は、援軍も補給もないなかで絶望的な戦いを挑み、最後は投降し捕虜になるのを拒んで、全滅していきました。ちなみに「玉砕」ということばが公式にはじめて使われたのは、一九四三年五月二九日に北東太平洋・アリューシャン列島アッツ島の守備部隊が全滅したときだといわれています。

大本営発表。アッツ島守備部隊は五月一二日以来極めて困難なる状況下に寡兵よく優勢なる敵兵に対し血戦継続中のところ、五月二九日夜、敵主力部隊に対し最後の鉄槌を下し皇軍の神髓を發揮せんと決し、全力を挙げて壮烈なる攻撃を敢行せり。爾後通信は全く途絶、全員玉砕せるものと認む。傷病者にして攻撃に参加し得ざる者は、之に先立ち悉く自決せり。

サイパン島の飛行場が米軍の手に落ちたこと、またちようどこのころ米空軍に最新鋭大型爆撃機B29が投入されたことにより、日本本土はいつきに爆撃の恐怖にさらされることにな



馬町空襲被災地(『写真で見る京都百年』(京都新聞社)より転載)

ったのです。B 29は五〇〇〇キロ以上の航続距離をもち、サイパン(のちグアム、テニアン島なども基地となる)を離陸して日本本土を爆撃し、ゆうゆう帰還することが可能でした。サイパン陥落により「絶対国防圏」が崩壊した責任をとる形で、七月一八日東条英機内閣は総辞職。また、一〇月のレイテ沖海戦(このとき「神風特攻隊」が初出動)で日本海軍艦隊は事実上壊滅し、以後組織的な作戦行動をとることはほぼ不可能となりました。本土にB 29が初飛来したのは十一月一日のことでした。このときは東京上空からの写真偵察だけでしたが、二四、二七、二九日と東京には空襲警報が鳴りひびき、中島航空機工場など軍事施設が高高度から爆撃を受けました。

年が明け一九四五年に入ると、一月一六日に京

出血はすさまじい血糊を流し続けていた。階下に寝ていた自分と祖母と姉は負傷した。かたが、自分のすることはまず、父に傷の手当てを受けさせることだと思った。このため自分は気絶したままの父を肩にかついだ。そして表に出た。道路にいた人たちが、修道国民学校に負傷者の救護所が臨時につくられた、と教えてくれた。父を担架たんかに乗せて、自宅から百メートルほど離れた修道校に運び込んだ。

臨時の救護所は学校の講堂内につくられていた。みると次々と重傷者が運ばれてきた。片足のちぎれた人がいた。はだけた胸から肩にかけてザクロのように肉塊がむきだした人がいた。だれもが目も当てられないほどにひどい傷を負っていた。講堂内は人いきれと血の臭いで異様な光景をみせていた。

### 西陣空襲

第三次建物疎開は、四月末にはほぼ完了しました。しかし、戦局はいよいよ悪化し、都市空襲は大都市だけでなく中小都市にもおよんできました。京都市については一月の馬町空襲のあとは四月一六日の昼ごろ、右京区太秦うずまさ巽町たつみ、唐渡町からと付近に一機のB29からの投弾があり、死者二人、負傷者四八人という被害が出ています。

# 戦争のなかの京都

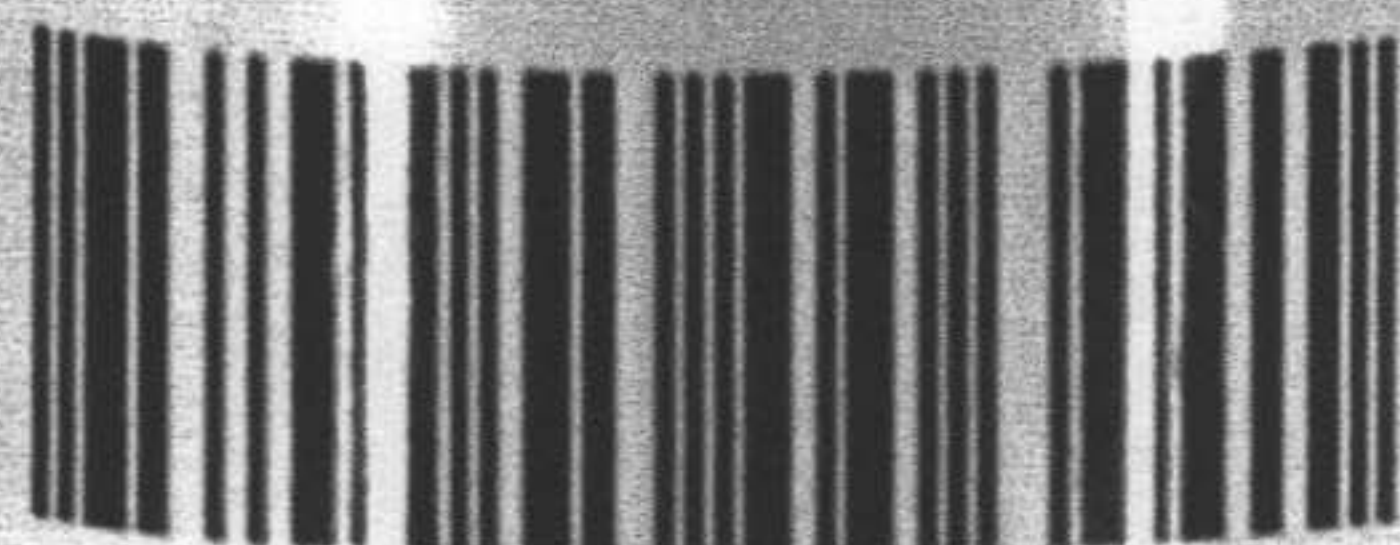
中西宏次著



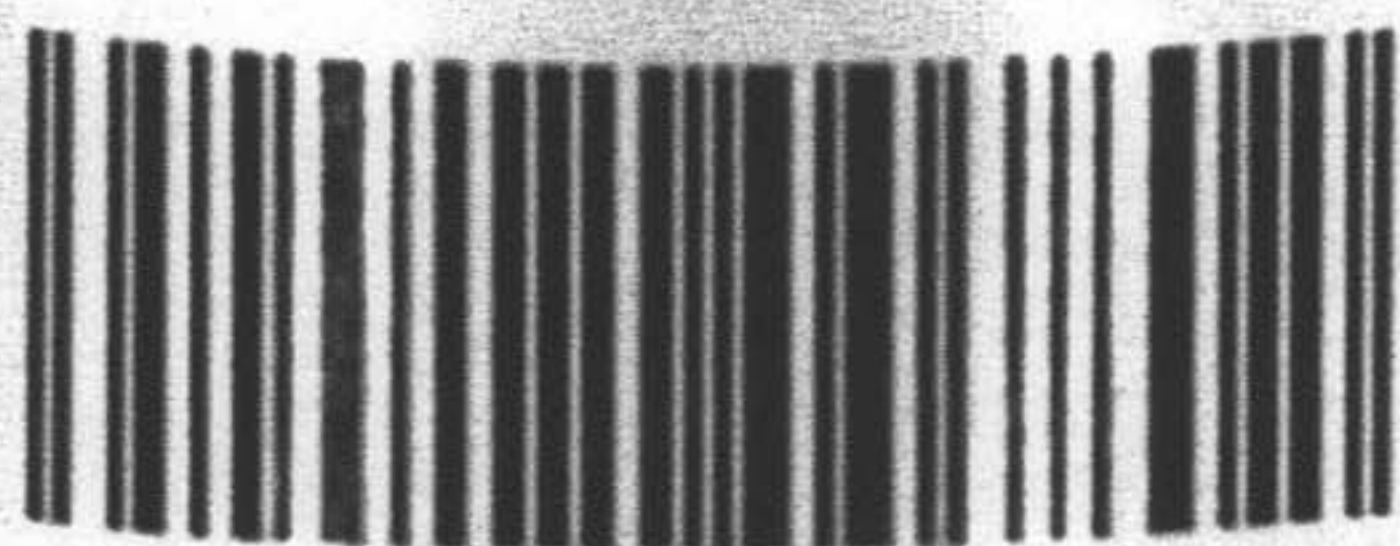
岩波

ISBN978-4-00-500644-1

C0221 ¥780E



9784005006441



1920221007802

定価(本体 780 円十税)



## 戦争のなかの京都

太平洋戦争のとき、京都は被害を受けなかったのか？ アメリカは、古都ゆえに空襲もしなかったのか？ そんなことはない。数回にわたる米軍の空襲で、約100人の死者を出していた。西陣織などの地場産業は壊滅状態になったし、寺社も金属供出、宝物保護などで大わらわだった。これまでほとんど語られてこなかった、戦争中の京都の姿を描く。

京都府立図書館



1108863562

KS  
216.2  
N38